

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント推進校 実施報告書

【都道府県】 宮城県

【学校名】 加美町立中新田小学校

【テーマ】 I II III IV V

- I オリンピズムの教育的価値
- II おもてなし精神とボランティア
- III パラリンピックと障害者スポーツ
- IV 日本文化と異文化・国際理解
- V スポーツを楽しむ心

【実践研究タイトル】

見つめよう！日本を！世界を！そして自分自身を！

【目的・ねらい】

本校では、これまでも地域に伝わる伝統文化を学んだり、障害者福祉について考えたりする教育活動に取り組んできた。子供たちは、地域の伝統文化を学ぶことで、自分たちのふるさとを見直し、ふるさとを愛する心情を育んできた。また、キャップハンディ体験や地域にあるデイサービス訪問等を行うことで、障害のある方や高齢者とふれあいを深め、他者を思いやる心情を深めてきた。本実践を通して、これまで行ってきた教育活動に、「日本の伝統文化についての理解を深めること」「障害のある方に対する理解を深め、更なる自己理解を深めること」「世界の国々に目を向けていくこと」の視点を加え、世界の中の日本人であるという意識を高めさせていきたいと考える。

本実践にあたっては、「世界の国々に目を向け、日本と他の国々との共通点や相違点を知り、興味関心を高めるために大豆を使った世界の料理づくり」「日本の伝統文化について理解を深め、日本人としての自覚を高めるために、日本の伝統文化に親しむ体験活動」「障害のある方々に対する理解を深め、更なる自己理解を深めることができるように福祉体験教室等」を行っていく。これらの活動を通して、世界には様々な国があることを知るとともに、世界の中の日本人であるという自覚を高めていきたい。また、日本の伝統文化を知ること、我が国に誇りをもつとともに、世界の国々に関心をもち、友好関係を築いていこうという心情を高めていきたい。さらに、自らの夢や目標をもち、困難に負けずに前向きに努力しようとする態度を身に付けさせていきたい。

【実践内容等】

1. 実施学年 第3学年（男子31名・女子32名）

IV 日本文化と異文化・国際理解

種類；総合的な学習の時間

(1) 活動テーマ

- 世界の大豆料理に挑戦しよう！

(2) 活動計画

日 時	活 動 内 容
10月27日	自分たちで植えた大豆の収穫をする。
10月下旬～ 11月下旬	地域の大豆を活用した料理や世界の大豆料理の調べ学習をする。
12月中旬	自分たちでつくる大豆料理の調理実習の計画を立てる。
1月下旬	大豆を利用した調理実習をする。

(3) 主な活動の様子

3年生は総合的な学習の時間において、加美町の特色である豊かな自然を生かした農業や文化を学ぶ活動を行っている。加美町は、その豊かな自然の下に、お米やねぎ、大豆などの生産が行われている。本事業では、JAの方々の指導を受けながら大豆の栽培活動を行うとともに、地域の方をゲストティーチャーに招いて豆腐づくりを行う。また、世界の大豆料理を調べたり、実際に料理をしたりすることを通して、地域から世界に目を向けさせていくことをねらいとし、活動を進めた。

① 大豆の種まき・収穫活動

JAの方を講師に、学校の畑で大豆の栽培活動を行った。子供たちは、進んで水やりをしたり、雑草を抜いたりするなど、意欲的に取り組む姿が見られた。



【JAの方と種まきをしている様子】

② 世界の大豆料理の調べ学習・発表会の実施

大豆を収穫した後、図書資料やインターネットを活用して世界の大豆料理を調べた。子供たちは、ふだんあまり目にしない世界地図に興味をもち、意欲的に調べ学習を行った。調べ学習を行った後、グループ毎に世界の大豆料理発表会を行った。「アメリカ・ブラジル・タイ・韓国」等の国々で食されている料理を紹介し合うことで、世界には様々な国があることを知る機会となった。



【図書資料を活用した調べ学習】

③ タイの大豆料理に挑戦

子供たちは、様々な国の大豆料理を調べたが、3年生の発達段階を考え、タイの大豆を使ったサラダに挑戦した。タイのチリソースを使用したり、本校のALTに協力してもらったりしたことで、より世界の料理に挑戦しているという意識が高まった。



【調理実習の様子】

2. 実施学年 第5学年（男子34名・女子32名）

Ⅲ パラリンピックと障害者スポーツ

種類：総合的な学習の時間

(1) 活動テーマ

○ やさしい心を届けよう！

(2) 活動計画

日 時	活 動 内 容
9月29日	高齢者疑似体験活動を行う。
10月 7日	介護士の方からの講話を聞く。
10月中旬	デイサービスセンターを訪問する。（1回目）
10月21日	認知症サポーター養成講座を受講する。
11月中旬	デイサービスセンターを訪問する。（2回目）
12月 1日	福祉体験教室を行う。

(3) 主な活動の様子

5年生は総合的な学習の時間において、障害者福祉や高齢者福祉に関する活動を行っている。学区内に社会福祉協議会やデイサービスセンターがあり、様々な方をゲストティーチャーに招き、豊かな体験活動ができる環境にある。本実践では、障害のある方や高齢者とふれ合ったり福祉体験教室等を体験したりすることで、障害者・高齢者理解を深めていくとともに、自己理解を深めることにつながることをねらいとし、活動を進めた。

① 高齢者疑似体験活動

社会福祉協議会の方を講師に、高齢者疑似体験活動を行った。耳栓や特殊眼鏡、手足の重りを装着して、高齢になったときの身体的な機能の低下や心理的な変化を擬似的に体験した。

② デイサービスセンターの訪問

学区内にあるデイサービスセンターを訪問し、介護士の方の仕事の様子や施設の中にある設備を見学させていただいた。また、子供たち自身で計画した高齢者の方々との交流会を行った。「どうすればお年寄りの方々に喜んでいただけるか」という、お年寄りの方に寄り添う姿も見られた。

③ 福祉体験教室の実施

加美町社会福祉協議会の方を講師に、車イスの使い方の説明を受け、補助の仕方を学んだ。また、白杖体験を通して目の不自由な方の苦労や補助の仕方を学んだ。どの活動も真剣に取り組む姿が見られた。



【重りを装着して歩行体験】



【交流会の様子】



【施設見学の様子】

3. 実施学年 第6学年（男子51名・女子41名）

IV 日本文化と異文化・国際理解

種類：社会科

(1) 活動テーマ

- 日本の伝統文化を体験しよう！

(2) 活動計画

日 時	活 動 内 容
11月17日	社会科で学んだ「能・茶道」を実際に体験する。

(3) 主な活動の様子

6年生は社会科で学習した能や茶道を実際に体験することで、日本の伝統文化について理解を深め、我が国に誇りをもたせるとともに、日本人としての自覚を高めることをねらいとし、活動を進めた。

① 「能」体験教室の実施

本校教頭を講師に活動を行った。能の歴史的背景や能面、謡（うたい）について説明を受けたり、実際に扇子を使って仕舞に取り組んだりした。子供たちにとって実物の能面を見る機会はほとんどなく、興味をもって活動に取り組む姿が見られた。



【能体験教室の様子】

② 「茶道」体験教室の実施

本校職員を講師に活動を行った。教室に畳を敷き、お辞儀の仕方や茶の作法とその意味を学んだ。その後、実際に湯を沸かし、茶を点て、お茶やお菓子をいただいた。現在の子供たちは、畳がない家庭も多く、慣れない正座に足がしびれている様子も見られたが、とても落ち着いた時間を過ごすことができていた。



【茶道体験教室の様子】

（成果）※児童・生徒の学習効果、意識変容等の効果について、可能な範囲でアンケート結果等概要を記入してください。

(1) 世界に目を向ける機会、意欲の高まり

3年生で行った「世界の大豆料理づくり」では、世界地図や国旗カードを子供たちに提示したり、調べ学習をしたりしたことで、他の国々に興味をもたせるきっかけとなった。特に、自分たちで育ててきた大豆が、他の国々でも料理に使われていることに親近感を抱き、意欲的に調べる姿が見られた。また、ただ調べるだけでなく、実際に料理をして食べることで、料理の見た目や風味の違いからも外国の文化を味わうことにつながった。

(2) 障害者福祉や高齢者福祉の理解の深まり

5年生で行った様々な福祉体験活動では、障害者福祉や高齢者福祉に対する理解に変容が見られた。活動当初の感想では、「障害のある方は大変だ。」という感想が多かったが、活動を進めていくうちに、「ただ大変なだけじゃなく、努力がすごい。」というように、障害のある方や高齢者の努力や工夫に気付くなど、理解に深まりが見られた。

(3) 日本の伝統文化への理解の深まり

6年生で行った「能・茶道」体験教室では、教科書で学んだ内容を実際に体験したことで、実感を伴った理解を深めることができた。また、日本の伝統文化に関心をもつきっかけとなった。

【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う課題点】

※オリンピック・パラリンピック教育の継続的な展開に向けて、実践を通して得られた課題点がございましたら、自由に記述してください。

今後の学校における取組の方向性としては、これまでに学校で行ってきた様々な教育活動を、オリンピック・パラリンピック教育という視点を加えて見直していくことで、活動に広がりや深まりが出ると考える。また、これから世界の中で生きていく子供たちに豊かな体験と広い視野をもたせることができると思う。

課題としては、オリンピック・パラリンピック教育を効果的に進めていくためには、年度当初に、年間の活動を計画していくことと、それらを調整していくコーディネーター役を校務分掌に位置付けていく必要があると考える。そうすることで、見通しをもって教育活動を推進でき、効果的な取組になるのではないかと考える。